◆歴史的風致の価値◆

■伝統行事・祭礼にみる歴史的風致（こおどり・やっさいほっさい）

・地域性や自然環境に即して形成された多様な集落

・豊穣や豊漁を祈念する個性豊かな祭礼

・伝統を受け継ぎ、守り続ける地域の誇り

〇行事・祭礼を通じて、地域に根付く伝統を感じることができる
〇地域として、ひとつにまとまることができる

海浜部の歴史的風致

堺名所（大浜公園） 明治36年（1903）

【海浜部の歴史的風致】

海浜行楽にみる歴史的風致

堺の海浜部は古くから景勝地として知られてきた。また、平安時代の公家の藤原定頼の歌集『権中納言定頼卿集』に「さか丰と伝所にしほゆあみにおはしける」とみられるように、平安時代から海水を暖めて温浴する塩風呂の習慣があり、「しほゆあみ」の名所としても平安貴族に広く知られていた。

近代以降は浜寺公園や大浜公園を中心に、行楽地として今も多くの人々でにぎわう。

海浜行楽にみる歴史的風致

■浜寺公園

浜寺公園周辺は、古くから白砂青松の地として知られてきた。「万葉集」をはじめ平安時代の歌題にも数多くみられ、紀貫之は「おきつなみたかしのはまのはままつのなにこそ君をまちつわたれり」(「古今集」)と詠むなど、松林の連なる風光明媚な場所であった。

「浜寺」という地名は、14世紀にまでさかのぼることができる。かつて大雄寺という大寺院があり、「浜の寺」という通称で呼ばれていたことから地名になったといわれる。

明治時代になると、浜寺の松林が伐採の危機にさらされるが、明治6年(1873)、大久保利通が訪れた際に、歴史に名高い松林の伐採を嘆き、松林の保存を説いたことから、公園が開設された。近代公園制度のはじめとなる、明治6年の太政官布達第16号「群衆遊観の場所に公園を設ける件」にもとづくもので、日本最初の都市公園のひとつであり、今も美しい松林を望み、多くの人々でにぎわう。

浜寺海水浴場

浜寺公園駅

海浜行楽にみる歴史的風致

■大浜公園

幕末に外国船の入港を防御する目的で御台場が築造され、明治に入り公園として整備された。

明治21年(1888)には阪堺鉄道が開通し、明治36年(1903)に開催された第5回内国勧業博覧会の会場のひとつとなった大浜公園では、水族館・公会堂などのレジャー施設が整備された。大正2年(1913)に、辰野片岡事務所設計による大浜潮湯が開業し、公会堂では、少女歌劇なども上演されていた。

また堺旧港の突端に位置する旧堺燈台は、明治10年(1877)に建築された建物で、建築当初の場所に現存する木造洋式燈台としては、わが国で最も古いものとして、国の史跡に指定されている。

かつての大阪都市圏を代表する海浜行楽地の名残りが今も周辺に点在し、公園には多くの人々が訪れる。

かつての大浜潮湯

堺大浜蛤取り

◆歴史的風致の価値◆

■海浜行楽にみる歴史的風致

・海浜行楽の起源となった“平安時代に始まる「しほゆあみ」の習慣”

・紀貫之の歌にも詠まれた風光明媚な白砂青松の地

・“日本最初の都市公園のひとつである浜寺公園”や浜寺公園駅舎、大浜潮湯などの様々な施設

〇行楽として、それぞれの時代の最先端を進んでいた
〇多くの人々が訪れ、賑わい、家族で楽しむことができる

堺市の歴史的風致に関する主な課題と取組みの方向性

堺市の歴史的風致に関する主な課題

堺市の歴史的風致の“価値”

- 百舌鳥古墳群の周遊
- 伝統行事・祭礼
- 伝統産業
- 茶の湯
- 海浜行楽

歴史的風致の維持向上に関する主な課題

○訪れる人々が百舌鳥古墳群の価値を感じられるような環境や景観が損なわれつつある
○古墳自体の損傷が進んでいる
○地域で行われている活動をいかに将来へと繋いでいけるか
○訪れる人々に、百舌鳥古墳群の素晴らしさを伝える取組 みや準備が不足している
○匠の技をいかに未来へと伝え続けていけるか
○訪れる人々が環濠都市の価値を感じられる“古いまちなみ”をはじめとする“古き良き時代の歴史資産”などが失われつつあり、これとともに賑わいなども消失しつつある
○伝統産業を育み続けた歴史的価値のある建造物についても老朽化が進みつつある
○“市民の茶”として広がりつつあるものの、ひとりひとりへ深めていく機会は少ない

歴史的風致の維持及び向上に関する取組みの方向性

堺の歴史的風致の価値を維持、或いはより高めるために、

○「伝統を反映した人々の活動」に対する支援

○「歴史上価値の高い建造物等」の保存・活用

○「周辺の市街地」に関する環境づくり

⇒ 景観の形成　町家修景　まちなみの再生
周遊・回遊性の向上
歴史的価値を学び、触れることができる環境